

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	歌麿を活かしたまちづくり事業
事業主体の名称	歌麿を活かしたまちづくり協議会
代表者の名称	会長 大木 洋
事業主体の所在	栃木県栃木市万町9番25号
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:喜多川歌麿の業績をたたえとともに、栃木市との関わりを市内外に発信し、ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたまちづくりをし、「まちなか」の賑わいを創出することを目的とする。 ・設立年月日:平成28年5月24日 ・構成員等:栃木市商店会連合会、栃木の例幣使街道を考える会、小江戸とちぎ会、栃木市歌麿通り商店会、蔵の街遊覧船、文化団体等並びに会の趣旨に賛同する個人(役員は各団体等からの代表者22名により構成)
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>栃木市では、江戸時代の浮世絵師 喜多川歌麿の肉筆画3点(「女達磨図」・「鍾馗図」・「三福神の相撲図」)を所蔵している。平成23年にとちぎ蔵の街美術館での3点揃っての公開に合わせて、歌麿を活かした文化・芸術のまちづくりを行おうと、市民団体等が主体となり「歌麿まつり」を開催し、翌24年には、歌麿まつり実行委員会を発足、以後、毎年10月から11月にかけて開催している。</p> <p>まつりを開催するにあたっては実行委員会を組織し、会議を重ねながら企画内容を決定、開催してきたが、まつり期間だけの活動である、歌麿と栃木市の関わりを市内外に十分に周知すること、並びに「まちなか」のにぎわいを創出し、まちづくりに繋げることが難しいことから、実行委員会の関係団体が、平成28年度に「歌麿を活かしたまちづくり協議会」を設立して「歌麿まつり」はもちろん、まつり期間以外にも年間を通じて活動を行っている。また、課題としては、歌麿まつり期間以外の企画が少ないことなどにより、交流人口が少なく十分に観光客を取り込むことができていないことが挙げられている。</p>
事業目的	ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたイベントを開催し、「まちなか」のにぎわいを創出することにより歌麿と栃木市の関わりを市内外に発信し、観光客を誘客するとともに、牽いてはまちづくりに繋げていくことを目的とする。
事業概要	<p>8回目となる本年度の歌麿まつり(9月29日～10月14日)としては、中心イベントとなる「歌麿道中」・「歌麿夢芝居」に加え、関係団体が体験型を中心とした関連イベントを開催した。また、本年度は、まつり期間中に市の委託を受けインバウンド事業として「外国人による歌麿道中」を開催したとともに、期間外イベントとしては、「歌麿に関する講演会」をはじめ各団体による関連イベントを開催した。</p> <p>①歌麿まつり(「外国人の歌麿道中」・「歌麿道中」並びに「歌麿夢芝居」をはじめ関係団体による関連イベント)の開催 【外国人の歌麿道中:9月30日開催、歌麿道中:10月13日開催、歌麿夢芝居:10月7日・8日開催(2公演) 関係団体による関連イベント:12イベント】</p> <p>②歌麿に関する講演会の開催【3月23日開催】</p> <p>③高精細複製画「雪月花」三部作揃っての特別展示【9月29日～12月24日】</p> <p>④歌麿まつり期間外での関係団体による関連イベントの開催【関係団体によるイベント:5イベント】</p> <p>⑤歌麿の肉筆画「女達磨図」・「鍾馗図」・「三福神の相撲図」(市所蔵)の展示及びとちぎ歌麿館での歌麿作品の浮世絵を展示(常設)【歌麿の肉筆画の展示:10月6日～14日】</p> <p>⑥研修部会での学習会【6回開催】</p> <p>【広報関係】 県内並びに宇都宮から浅草までの東武鉄道沿線の地域へのPRを重視し、市ホームページやケーブルテレビによる情報提供、県内各市町へのポスター・チラシの送付をはじめ、東武鉄道沿線の各駅へのポスター掲示等を行った。また、栃木県を対象としたデスクティンネーションキャンペーンに合わせて、観光振興課と連携して県内外への広報活動を行うとともに、今年度はインバウンド事業として「外国人の歌麿道中」も実施し、参加者にインターネットを媒体としたSNS等による情報発信も呼びかけた。さらに、歌麿を活かしたまちづくり協議会の会報をはじめ発行し、協議会の活動についても市内外の方々への周知を図った。</p> <p>【翌年度以降の取組】 上記の事業を継続する他、協議会の研修部会やまちづくり部会の活動を充実させ、歌麿と栃木の関連を広く伝えるための人材育成を行うとともに、市内外への啓発活動として研修会等の開催についても取り組んでいく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加／観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:5年後(平成31年度)に年間380万人(平成29年度末現状値 398万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示(10月～12月)	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示 ④歌麿と栃木関連の資料・情報の収集	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示 ④歌麿に関する講演会の開催 ⑤歌麿と栃木関連の資料・情報の収集		①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示 ④歌麿に関する講演会及び研修会の開催 ⑤歌麿と栃木関連の説明・解説のできる人材の育成
事業費	4,859,912	4,134,556	6,074,552	15,069,020	3,500,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,800,000	1,800,000	1,800,000	5,400,000	900,000
うち県交付金	900,000	900,000	900,000	2,700,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	3,059,912	2,334,556	4,274,552	9,669,020	2,600,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 蔵の街課 蔵の街推進係
担当者名	佐藤 義美
電話	0282-21-2573
連絡先 FAX	0282-21-2674
E-mail	kuranomachi@city.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	
単位事業名	歌麿を活かしたまちづくり事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部 (単位:円)

科目	精算額	備考
会費	56,000	団体:3,000円×17団体=51,000円 個人:1,000円×5人=5,000円
入場料(チケット販売代)	1,613,000	歌麿シアターチケット販売代 前売券(一般:2,000円×745枚=1,490,000円、学生:1,500円×36枚=54,000円、外国人:1,000円×34枚=34,000円 当日券:2,500円×14枚=35,000円
栃木市補助金	1,800,000	栃木市
委託料	1,000,000	栃木市(外国人の歌麿道中開催委託料)
協賛金	1,153,000	企業・各種団体等からの支援金 80,000円×2社(団体)=160,000円、50,000円×3社(団体)=150,000円、30,000円×1社(団体)=30,000円、20,000円×14社(団体)=280,000円、15,000円×2社(団体)=30,000円、10,000円×50社(団体)=500,000円、3,000円×1社(団体)=3,000円
繰越金	452,541	前年度からの繰越金
雑入	11	預金利子等
計	6,074,552	

2 支出の部 (単位:円)

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	1,667,565	640,000	320,000	1,027,565	歌麿シアター(歌麿夢芝居)出演者への謝礼 180,000円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)演出・舞台・音楽等謝礼 740,000円 外国人の歌麿道中参加者への謝礼及び記念品 97,400円 歌麿道中参加者への謝礼及び記念品 222,165円 団体イベント実施謝礼 405,000円 歌麿に関する講演会講師謝金 23,000円
印刷製本費	489,444	180,000	90,000	309,444	歌麿まつりポスター・チラシ印刷代 113,184円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)当日パンフレット印刷代 159,180円 歌麿まつり東武鉄道PR用ポスター印刷代 51,840円 歌麿まつり期間各イベント説明用パンフレット印刷代 59,400円 歌麿を活かしたまちづくり協議会会報印刷代 105,840円
手数料	37,411	20,000	10,000	17,411	チラシ折込手数料 9,072円 振込手数料 3,780円 クリーニング代 24,559円
委託料	2,434,398	900,000	450,000	1,534,398	歌麿シアター(歌麿夢芝居)舞台関係委託料 530,000円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)広報関係委託料 123,500円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)開催委託料 50,000円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)DVD作成委託料 44,284円 歌麿シアター(歌麿夢芝居)立て看板作製委託料 17,280円 外国人の歌麿道中開催委託料 752,144円 歌麿道中開催委託料 667,870円 外国人の歌麿道中並びに歌麿道中着付関係委託料 199,594円 外国人の歌麿道中並びに歌麿道中DVD作成委託料 49,726円
使用料及び賃借料	251,100	60,000	30,000	191,100	歌麿シアター(歌麿夢芝居)練習会場使用料 145,100円 歌麿シアタープロジェクター使用料 16,000円 外国人の歌麿道中並びに歌麿道中着付部屋使用料 90,000円
旅費	338,740	0	0	338,740	歌麿シアター演出者・監督等交通費 333,900円 歌麿を活かしたまちづくり協議会顧問旅費 4,840円
消耗品費	335,572	0	0	335,572	歌麿道中及び歌麿シアター関係等消耗品 78,572円 歌麿まつり啓発用消耗品 257,000円
食糧費	280,081	0	0	280,081	歌麿シアター(歌麿夢芝居)出演者等食糧費 91,793円 外国人の歌麿道中並びに歌麿道中出演者等飲食物代 16,566円 外国人の歌麿道中並びに歌麿道中出演者等弁当代 164,680円 定期総会出席者飲食物代 3,542円 歌麿に関する講演会の際の講師等昼食代 3,500円
通信運搬費	32,884	0	0	32,884	歌麿シアター(歌麿夢芝居)関係郵便送料 28,784円 歌麿を活かしたまちづくり協議会事務用切手代 4,100円
保険料	24,850	0	0	24,850	歌麿シアター(歌麿夢芝居)関係ボランティア活動保険
次年度繰越金	182,507	0	0	182,507	
計	6,074,552	1,800,000	900,000	4,274,552	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業
事業主体の名称	渡良瀬遊水地フェスティバル実行委員会
代表者の名称	実行委員長 小黑 迅
事業主体の所在	〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡1788
事業主体の概要	設立年月日:平成27年6月12日設立 構成員:全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)、宇都宮ブリッツェン、特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡、一般社団法人栃木市熱気球クラブ、公益社団法人日本グライダークラブ、足利マイクロフライングクラブ、渡良瀬カヌークラブ、栃木県セーリング連盟、藤岡まちづくり委員会、栃木県ボート協会
当該事業に係る地域の現状と課題	「渡良瀬遊水地フェスティバル」は、これまで栃木市及び栃木市教育委員会主催で行ってきたが、行政主体ではなく、平成27年から実行委員会を組織し、参加団体の意見をより反映できるような市民協働のイベントとして開催。渡良瀬遊水地は3,300haという広大な敷地に、本州最大のヨシ原がありその立地特性から、以前からスカイスーツ、ウォータースーツが盛んな場所、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などがあり、日常的に親しまれてきた。しかし、騒音やマナー、安全性、動植物に与える影響の面で、地域住民および環境保護団体との問題により、それら広大な土地や貯水池などの自然環境や地域資源を活かした活動やイベントに広がりを生み出せず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般市民及び市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースーツの利活用を強化、両立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力をPRできるかが、観光客入込数を増加させるための課題である。
事業目的	渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースーツの熱気球やスカイダイビング、グライダーなどの他、栃木市のPRを行う目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、交流人口の増加による地域の活性化を目指す。
事業概要	今年度は、渡良瀬遊水地の地域資源であり、湿地の代表的な存在である「ヨシ」の利活用体験により、環境保護意識を高めてもらうとともに、ボランティアガイドによる渡良瀬遊水地の見どころ案内を行い、治水や利水、遊水地の歴史や文化に対して理解を深めてもらった。また、遊水地で日常的に行われているレジャースーツを一堂に紹介し、見るだけではなく、体験できるプログラムを充実させることでルールとマナーを一般の方にも学んでもらい、県内外から新たな誘客を促進した。 【時期】平成30年9月2日(日) 【会場】渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催…(プロの団体が参戦するロードバイクの大会) ②熱気球係留・スカイダイビング・グライダー・ボート・Eポート・キックバイク体験…(広大な渡良瀬遊水地で行われる各種スポーツの体験) ③カヌー・ウルトラライトプレーンの展示、ヨットのデモンストレーション…(各種スポーツで使用する乗り物の展示や、実演) ④ヨシ細工づくり体験…(地域資源であるヨシの活用と体験) ⑤ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内…(ボランティアによる遊水地ミニツアー) ⑥スタンブラリーの実施…(遊水地に関するアンケートを実施し、先着100組に栃木市産巨峰プレゼント) ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR…(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のバネル紹介および、市特産品紹介) 今回のイベント開催に限らず、レジャースーツは年間を通して楽しまれており、4月のパルフェスティバル、7月のラムサール条約湿地登録記念日イベント、8月のボートレース大会などの市主催のイベントにて各種の利用団体および一般参加者に遊水地のルールやマナーの啓発に努めている。翌年度以降も「ルールとマナー」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地を未来につなげるための環境保全の取組を行いつつ、渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースーツに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図る。 渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースーツを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行った。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数: H26年間365万人→H31年間380万人【H27実績389万人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球係留・スカイダイビング・グライダー・Eポート体験 ③カヌー・ウルトラライトプレーンの展示、ヨットのデモンストレーション ④ヨシ細工づくり体験 ⑤ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑥抽選会の実施 ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球係留・スカイダイビング・グライダー・Eポート体験 ③カヌー・ウルトラライトプレーンの展示、ヨットのデモンストレーション ④ヨシ細工づくり体験 ⑤ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑥抽選会の実施 ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球係留・スカイダイビング・グライダー・Eポート・キックバイク体験 ③カヌー・ウルトラライトプレーンの展示、ヨットのデモンストレーション ④ヨシ細工づくり体験 ⑤ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑥スタンブラリーの実施 ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR		①JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ②熱気球係留・スカイダイビング・グライダー・ボート・Eポート・キックバイク体験 ③カヌー・ウルトラライトプレーンの展示、ヨットのデモンストレーション ④ヨシ細工づくり体験 ⑤ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ⑥スタンブラリーの実施 ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR
事業費	3,474,602	3,393,960	3,703,172	10,571,734	3,888,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,732,000	2,732,000	2,732,000	8,196,000	2,732,000
うち県交付金	1,350,000	1,350,000	300,000	3,000,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	742,602	661,960	971,172	2,375,734	1,156,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 遊水地課 環境保全ワイルド係
担当者名	今野 文裕
電話	0282-62-0919
FAX	0282-62-0922
E-mail	wise-use@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
栃木市負担金	2,732,000	市負担金
協賛金	746,500	企業・参加団体等協賛金 108,000円×1社=108,000円 106,000円×1社=106,000円 100,000円×2社=200,000円 50,000円×3社=150,000円 30,000円×1社=30,000円 10,000円×11社=110,000円 3,000円×11団体=33,000円 5,000円×1団体=5,000円 1,500円×3団体=4,500円
繰越金	218,666	前年度繰越金
雑収入	6,006	Eポート体験参加費(保険料等を除いた額) 6,000円 預金利子 6円
計	3,703,172	

2 支出の部

科目	精算額	財源		備考
		市町支出額	自主財源等	
			県交付金	
補助対象経費	3,225,342	2,732,000	300,000	493,342
消耗品費	102,099	66,000	20,000	36,099
備品購入費	102,286	60,000	30,000	42,286
印刷製本費	216,515	200,000	100,000	16,515
通信運搬費	10,184	0	0	10,184
広告費	9,072	0	0	9,072
手数料	11,556	0	0	11,556
委託料	2,720,030	2,406,000	150,000	314,030
使用料及び賃借料	53,600	0	0	53,600
補助対象外経費	477,830	0	0	477,830
報償費	45,500	0	0	45,500
食糧費	27,000	0	0	27,000
次年度繰越金	405,330	0	0	405,330
計	3,703,172	2,732,000	300,000	971,172

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	高校生まちなか活性化事業
事業主体の名称	とちぎ高校生蔵部
代表者の名称	菅谷 悠樹
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課内
事業主体の概要	<p>・団体の目的:ボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成26年4月1日</p> <p>・構成員等:栃木市内に居住する高校生及び市内の高等学校に在学する高校生並びにとちぎ高校生蔵部の目的に賛同する高校生</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・市内の高等学校に通学する生徒が中心となり、「とちぎ高校生蔵部」を立ち上げ、まちなかでのイベントに参加している、栃木市中心部においても高齢化が進捗し、イベント等での担い手が不足していることから、高校生の視点による事業を展開し、中心市街地の活性化を図る必要がある。</p> <p>・「とちぎ高校生蔵部」の取り組みにより、高校生の地域づくり活動への関心が高まってきている一方で、地域のイベント等での担い手要請は後を絶たない状況である。そのようなことから、まずは高校生が街なかの魅力に触れる機会を創出し、イベントに参加した高校生が栃木市の魅力に触発され、将来の地域の担い手として活動してもらえ環境整備が必要である。</p>
事業目的	高校生の視点による栃木市の魅力発信と街なかの賑わい創出
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>①地元商店等の協力を得ながら、高校生がお勧めする「栃木の街散策マップvol.4」を作成し、栃木市の魅力を観光客や市内に通学する高校生に発信した。 作成部数:6,000部(日本語版)、3,000部(英語版)</p> <p>②上記で制作したマップを活用した若者及び栃木市来訪者向けの街歩きイベントを開催した。 開催日:平成31年3月17日(日) 開催場所:蔵の街大通り周辺 参加者:17名</p> <p>③栃木市の魅力あるロケーション(歴史的建造物や巴波川など)を活用し、若者(小学生~高校生)向けの「My記念日撮影会“雛祭り”」を開催した。 開催日:平成31年3月3日(日) 開催場所:山車会館及びその周辺 参加者:14名</p> <p>【平成30年度実施事業の特徴】</p> <p>①マップづくりは、学割を実施する店舗数を増やす取り組みを併せて行い、マップを見た若者が栃木市に訪し、街なかの若者交流人口を増やす取り組み。</p> <p>②街歩きイベントは、高校生がマップづくりで得た知識を活かし、歴史的建造物や高校生おススメ店舗のメニューを紹介するなど、栃木市に関心のある若者に対して、よりダイバーシティブな栃木市を知ってもらう取り組み。</p> <p>③My記念日撮影会は、若者のライフイベント(成人式等)の際に栃木の魅力あるロケーションを活用した記念撮影の場としての活用をPRする取り組み。</p> <p>【事業のPR方法】</p> <p>SNS(twitter、facebook)を活用し、市内外から通学する高校生及び大学生等をターゲットに情報発信を行い、栃木市への関心を高めてもらう。</p> <p>【翌年度以降の取組み】</p> <p>とちぎ高校生蔵部で活動するメンバーの加入促進に取組み、翌年度以降についても上記事業を拡充し、市外からの若者の来訪者及び市内に在住する若者のまちなか交流人口の新たな流れを構築する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅カツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅カツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅カツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催		①「高校生イチオシ!蔵の街魅カツアー」開催 ②「My記念日撮影会」開催
事業費	111,766	121,930	113,162	346,858	70,000
市町支出金(ソフト事業分)	100,000	100,000	100,000	300,000	50,000
うち県交付金	50,000	50,000	50,000	150,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	11,766	21,930	13,162	46,858	20,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課 青少年係
担当者名	藤野 法之
電話	0282-21-2489
FAX	0282-21-2690
E-mail	gakusyu05@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	高校生まちなか活性化事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市町村支出金	100,000	
自主財源	13,162	とちぎ高校生蔵部イベント収益金(既存財源)
計	113,162	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町	県交付金		
報償費	55,000	50,000	25,000	5,000	栃木の街散策マップ制作デザイナー謝金 20,000円 My記念日撮影会カメラマン謝金 30,000円 栃木の街散策マップ翻訳謝金 5,000円
消耗品費	13,142	4,980	2,490	8,162	My記念日撮影会用消耗品等 13,142円
印刷製本費	43,380	43,380	21,690	0	栃木の街散策マップ印刷代(日本語版6,000部) 28,200円 栃木の街散策マップ印刷代(英語版3,000部) 15,180円
通信運搬費	1,640	1,640	820	0	栃木の街散策マップ等郵送料 1,640円
使用料及び賃借料	0	0	0	0	撮影会場借上料(山車会館) 0円
				0	
				0	
				0	
				0	
計	113,162	100,000	50,000	13,162	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業
事業主体の名称	一般社団法人栃木市地域包括ケア推進ネットワーク(あったかネットとちぎ)
代表者の名称	代表理事佐々木 剛
事業主体の所在	栃木市内町2-17-23 城内高齢者総合ケアセンター 蔵の街ひまわり
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 栃木市の地域包括ケアシステムの確立と活動を支えるため、多職種連携により施設でも在宅でも最後まで自分らしく生きることを支援を行う。</p> <p>・設立年月日: 平成27年3月17日</p> <p>・構成員等: 栃木市医師会、下都賀郡市歯科医師会、栃木市薬剤師会、栃木市訪問看護ステーション連絡会、栃木市介護支援専門員連絡協議会、栃木市特養・養護施設協議会、在宅介護サービス事業所連絡会、医療法人アスミス</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>地域の特徴・現状・課題等(事業の内容と関連するもの)を記載</p> <p>栃木市では「生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)」を推進するに当たり、多職種連携による地域包括ケアシステムの構築を目指しており、その過程で介護予防・日常生活支援総合事業のサービス創設、認知症施策の推進、医療介護連携の推進の取り組みを進めている。</p> <p>また、24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備等の24時間在宅での安心を支える医療介護の連携体制が重要であり、特に看取りを視野にした在宅診療の体制整備が急がれている。</p> <p>医療介護ニーズの高い高齢者が在宅生活を続けられるためには、医療関係者や介護関係者が連携して在宅医療(看取りケア)を実現することが必要となる。併せて、在宅医療を推進することで高齢者本人が人生の最終段階を地域の中で迎えたという意思を尊重する選択が可能となり、本人の意思を叶えるためには、本人とその家族の心構えと共に治し支える医療いわゆる在宅医療に関する理解を得ることが重要であることから、医療介護の連携や在宅医療の重要性を医療介護関係者や市民に啓発していく必要がある。</p>
事業目的	<p>事業の目的を簡潔に記載</p> <p>都市部の高齢者が自らの希望に応じて本市に移住し、「第二の人生」を歩むことを支援するために、人生の最終段階まで自分らしく生きることを支援する継続的なケア体制を市内に確保する。そのためには、医療介護関係者及び多くの市民に在宅医療(看取りケア)の必要性を普及啓発することで、本人の意思が尊重される医療・介護の必要性が栃木市全体に広がり、市民が在宅医療のサービス提供体制を強く求めるようになる。</p> <p>また、従来は医療介護サービスの受け手として「受動的」な存在であった高齢者を、栃木市版CCRCにおいて、同世代の高齢者の生活を支援する人材として「主体的」な存在として位置付けることを想定しており、高齢者が地域社会に溶け込み、地域住民や現役世代とともに高齢者が安心して暮らすことのできる栃木市版の地域包括ケアシステムの構築を目指す。</p>
事業概要	<p>当該年度の実施内容、翌年度以降の取組等を簡潔に記載</p> <p>栃木市版CCRCの推進に当たっては、高齢者のニーズに応じたきめ細かな支援を展開し、定住に結びつけることが重要である。その一環として、地域住民が構想段階から、「高齢者が地域社会に溶け込み、多世代との協働や地域貢献ができるコミュニティをどのように形成していくか」についての意見交換や検討を行う機会を設けることが必要であり、今年度は市民に対する在宅医療(在宅での看取りケア)の重要性を普及啓発するためのシンポジウムを開催した。</p> <p>【平成30年度】</p> <p>①在宅医療に関わる医療介護関係者による事例発表及びシンポジウム 開催日 平成30年10月21日(日) 場所 栃木市 国府公民館(栃木市惣社町228番1) 事例発表者 福地将彦(医師)、大森正規(医師)、柿沼亜希子(看護師)、寺内康人(看護師)、福田皓宏(ケアマネジャー) 機部博之(生活指導員)</p> <p>テーマ ~人生の最期を考えてみませんか~「人生の最期を望む場所で迎えるために...専門職によるチームケア支援」</p> <p>【平成31年度】</p> <p>・在宅医療及び在宅見取りの実践事例のよる講演会を実施予定 ・開催日、講師等は未定</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>各市町の戦略から抜き出して記載</p> <p>【具体的施策】生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)の推進/生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)事業</p> <p>【KPI】東京圏から移住した高齢者数 H26:0人→H31:80人 (参考)関東地方から移住した数値(60歳以上、県内での移住者を除く) H27:算出不可 H28:8人 H29:未定</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	市民特別講座「最期まで住み慣れた自宅で暮らすための看取りケアシンポジウム」 ①実行委員会 ②シンポジウムPR活動 ③講演会及びシンポジウム	市民特別講座「最期まで住み慣れた自宅で暮らすための看取りケアシンポジウム」 ①実行委員会 ②シンポジウムPR活動 ③講演会及びシンポジウム	看取りケアシンポジウム~人生の最期を考えてみませんか~ ①実行委員会 ②シンポジウムPR活動 ③事例発表及びシンポジウム		
事業費	621,228	306,758	150,000	1,077,986	400,000
市町支出金(ソフト事業分)	300,000	150,000	70,000	520,000	200,000
うち県交付金	150,000	75,000	35,000	260,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	321,228	156,758	80,000	557,986	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	保健福祉部 地域包括ケア推進課 地域包括ケ
担当者名	中村 康広
電話	0282-21-2244
FAX	0282-21-2670
E-mail	houkatsu@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
栃木市負担金	70,000	栃木市負担金
自主財源	80,000	自主財源 事業主体負担分 20,000円 構成団体負担分 60,000円
計	150,000	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	43,400	40,000	20,000	3,400	シンポジスト6人 37,200円 コーディネーター1人 6,200円
消耗品	0	0	0	0	
食糧費	55,000	0	0	55,000	パネリスト・シンポジウムスタッフお弁当代・お茶代
印刷製本費	51,600	30,000	15,000	21,600	シンポジウムチラシ、アンケート印刷
手数料	0	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
				0	
計	150,000	70,000	35,000	80,000	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査書)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬バルーンレース開催事業
事業主体の名称	渡良瀬バルーンレース実行委員会
代表者の名称	実行委員長 神島 馨
事業主体の所在	〒323-1192 栃木県栃木市藤岡町藤岡1022-5
事業主体の概要	団体の目的: 渡良瀬遊水地において熱気球大会を開催し、スカイスポーツの普及及び啓蒙を図り、もって地域振興に寄与すること 設立年月日: 平成23年1月17日 * 構成員等: 一般社団法人栃木市熱気球クラブ、藤岡町商工会、一般社団法人栃木市観光協会藤岡支部、下野農協協同組合、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、特定非営利法人熱気球運営機構、栃木市、栃木市藤岡地区体育協会、栃木市藤岡女性団体連絡協議会、藤岡まちづくり委員会、足利銀行藤岡支店、栃木信用金庫藤岡支店
当該事業に係る地域の現状と課題	「渡良瀬バルーンレース」は、2000年より開催し、当初より実行委員会を組織して、行政主体ではなく地元住民や競技団体の意見を反映できる市民協働のイベントとして開催している。渡良瀬遊水地は3,300haあり、本州最大のヨシ原でその広大な立地特性から以前からスカイスポーツ、ウォータースポーツが盛んな場所であり、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などがあり、日常的に親しまれている。しかし、広大な土地や貯水池などの自然環境や地域資源を活かしているとは言えず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般の市民および市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光誘客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースポーツの利活用を強化、両立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力のPRをできるかが観光客入込数を増加させるための課題である。
事業目的	渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースポーツの熱気球による、栃木市の地域振興、熱気球人口の増加及び熱気球競技に携わる選手等の技術育成を行う目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、本イベントを市の玄関口とし、本市の見どころを紹介し、交流人口の増加や滞在時間が増えることによる宿泊客増加による地域の活性化を目指すとともに、熱気球の魅力を広め熱気球に携わる者の栃木市への定着を図る。
事業概要	【平成30年度】 小学生向け熱気球教室を会場周辺の小学校を対象に、普段、自宅等から飛行している姿が見える熱気球がどのような仕組みになっているか、どのような原理で飛行するかをミニ熱気球を作製飛ばすことで、熱気球をもっと身近に感じてもらいイベントへの興味を深めてもらうため開催した。また、本市で所有するハート形の熱気球「ハートランド号」を活用し、バレンタインデーに合わせたイベントを実施した。栃木県東京事務所を通しての告知や大会会場への案内看板等を充実させ近年増えつつある県内外からの来訪者のさらなる増加とスムーズな誘客を促進した。目玉プログラムの一つであるバルーンイリュージョンが夜間に行われるため、会場内照明の充実や夜桜ライトアップを行い暗がり減らすことで会場内の通路等の安全・安心を確保し、ホスピタリティの向上を図った。 【時期】平成30年4月6日(金)、7日(土)、8日(日) 来場者数100,000人 【会場】藤岡渡良瀬運動公園、渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】①小学生向け熱気球教室(告知事業)・・・(熱気球の原理を学んだり、ミニ熱気球を作り実際に飛ばす体験を通して熱気球及び大会の魅力を感じる教室) 【藤岡地域】部屋小、赤塚小 ②バレンタインデーイベント(告知事業)・・・(栃木市所有のハート形熱気球のハートランド号とバレンタインデーのイメージであるハートをかけ、参加者による保留搭乗体験を通じ、熱気球の魅力やイベントの周知を図る企画) ③熱気球グランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会・・・(国内のトップ選手たちによる熱気球の大会) ④バルーンイリュージョン・打上花火・・・(夜桜と共に感じる熱気球ライトアップと打上花火のコラボレーションによるプログラム) ⑤ウルトラライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション・・・ (普段、間近で見ることのできない機体を見たり触ったりしたり、ペーパーグライダーを作り飛ばす体験) ⑥熱気球教室、熱気球保留搭乗体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる熱気球競技のルールを学んだり、体感する体験) ⑦同時開催: さくら祭り・・・(日本で唯一桜と共に観戦できる大会で競技場に来訪者を退屈させないよう、ステージでの歌や踊りの披露及び地元グルメ等の販売を行う) ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介および、栃木市全体の観光地各所の紹介) 9月の渡良瀬遊水地フェスティバル、11月のウォーキング大会など遊水地で関連されるイベントだけでなく市主催のイベントや他市のイベントでもPR本イベント及び熱気球競技の周知に努めた。 【平成31年度】 「栃木市PRの玄関口としての場所・イベント」を継続し、市の宝である渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースポーツ振興に力を入れ、新しい観光客の獲得に努めていく。渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いため、広報活動においては、各種のレジャースポーツを楽しむ団体の方々や一般の来訪者への広報活動の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebookへの記事掲載やチラシ、ポスター等を広域的に配布することで県内外に広域的なPRを行っていく。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	各市町の戦略から抜き出して記載 【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人 平成27年:3,892,192人 平成28年:3,863,706人 平成29年:3,982,854人

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

事業内容	29年度		30年度		31年度		支援期間の事業費計		支援期間の翌年度	
	事業費	補助金	事業費	補助金	事業費	補助金	事業費	補助金	事業費	補助金
①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②ホンダグランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会開催 ③熱気球グランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会開催 ④バルーンイリュージョン・打上花火 ⑤ウルトラライトプレーン展示、ペーパーグライダー体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション ⑥熱気球教室、熱気球保留搭乗体験 ⑦同時開催: さくら祭り ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR	5,652,276	4,300,000	5,436,803	4,000,000	5,436,803	4,000,000	11,089,079	8,300,000	5,377,000	4,000,000
市町支出金(ソフト事業分)		4,300,000		4,000,000		4,000,000		8,300,000		4,000,000
うち県交付金		1,000,000		1,000,000		1,000,000		2,000,000		2,000,000
市町支出金(ハード事業分)		0		0		0		0		0
うち県交付金		0		0		0		0		0
その他自主財源等	1,352,276		1,436,803		0		2,789,079		1,377,000	

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	産業振興部 藤岡産業振興課 商工観光係
担当者名	小野 晶久
電話	0282-62-0907
FAX	0282-62-0918
E-mail	f-sanyou04@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	渡良瀬バルーンレース開催事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
栃木市負担金	4,000,000	市負担金
協賛金	664,000	公式プログラム広告協賛金(29件、¥420,000) 打上花火協賛金(27件、¥244,000、法人・個人含む)
繰越金	736,796	前年度繰越金
雑収入	36,007	預金利息、寝具レンタル料等
計	5,436,803	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町交付金	県交付金		
報償費	117,166	77,166	0	40,000	告知事業熱気球教室講師謝礼 20,000 大会MC謝礼 70,000 大会表彰記念品代 27,166
旅費	4,920	4,920	0	0	記者説明会等参加旅費 4,920
交際費	386,959	316,959	0	70,000	式典飲食費 245,779 選手、スタッフ朝食サービス費 141,180
消耗品費	91,021	91,021	0	0	会場設置用消耗品(カラーコーン、ロープ止め、ppテープ等) 78,549 事務用消耗品 12,472
燃料費	0	0	0	0	
食糧費	38,744	0	0	38,744	告知事業スタッフ昼食代 33,013 接待用お茶代 5,731
印刷製本費	181,548	159,604	0	21,944	告知ポスター・チラシ印刷 75,060 直前チラシ印刷 106,488
通信運搬費	78,279	78,279	0	0	各種郵送料 40,616 大会臨時携帯電話使用料 8,294 競技本部ネット回線使用料 29,369
手数料	97,834	97,834	0	0	煙火消費申請手数料 7,900 仮設トイレ取り手数料 18,000 直前チラシ折込手数料 71,934
委託料	3,588,693	3,168,693	1,000,000	420,000	公式プログラム作製委託 420,864 会場設営委託 1,554,552 各種作業委託(シルバー人材) 116,677 会場警備及び駐車場誘導委託 678,672 花火打上委託 650,540 大会看板作製委託 17,388 告知事業委託 150,000
使用料及び賃借料	41,524	5,524	0	36,000	貸布団代 39,324 ガスコンロレンタル 2,200
負担金及び交付金	0	0	0	0	
次年度繰越金	810,115	0	0	810,115	
計	5,436,803	4,000,000	1,000,000	1,436,803	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合